

第59回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「新庁舎整備に向けた若手職員庁内ワーキング」のメンバー

★参加メンバーからの主な声

- 「今の庁舎で、今やっている仕事でベストを尽くし、限界に挑戦しなければ、新庁舎になってもなにも変わらない」という言葉が印象に残りました。現状の中にも工夫次第でできることがあるはずです。努力する姿勢があって初めて、新庁舎の最新のハード面を最大限に生かし、縦割行政の打破や、真の市民協働が実現できるのだと痛感しました。
- 「新庁舎整備に向けた若手職員庁内ワーキングで検討したことを、明日からの仕事に活かすことが大切である。」という言葉が特に印象に残りました。自身が受け持つ業務だけでなく、組織全体の業務を意識しながら日々の業務に携わることが大切であると感じました。
- 市役所を市職員、市民の皆様、観光客、外国（世界）と繋がる拠点としたいという思いについて、市長に共感いただけたような気がしました。
- 提案には、大胆な内容やまだまだ荒削りな部分もありましたが、市長が前向きに受け取ってくださったことで、これまで取り組んできたワーキングの達成感を得ることができ、今後の業務に対する意欲にもつながりました。
- 施設整備を通して人を育てるという観点があるという市長の言葉に感銘を受け、人が過ごす空間が、その人の人生に大きな影響を与えるものであるということを再認識しました。
- 市長が各班の提案内容について細かく感想や意見をくださったのが印象的でした。緊張しましたが、自分の思いを直接伝えられ良い経験となりました。
- 今回の提言が実際の整備計画にどれだけ反映されていくのかが楽しみです。

★市長からのコメント

- どの班もそれぞれ深みのある提案で、市民の方々をはじめ世界とのつながりやコミュニケーションを大事にしている。開かれた市政や市民参加の推進につながる提案であり、素晴らしい。
- 京都ならではのもの、伝統産業を活かすもの、最先端の技術を取り入れるものなど、それぞれの提案にコンセプトがあり、どれも興味深い。ひとつの場所に様々な要素を組み合わせることで、相乗効果が期待できる。
- あらゆる知恵を集結させて、最大限コストを抑えつつ、市民の方々や外国人観光客の声などを反映させ、職員が市民の方々のためにいきいきと職員力を発揮し、未来を拓いていけるような市庁舎にしたい。
- 今回の提言の中には、すぐできること、工夫したらできること、少し難しいこと、いろいろ含まれていると思うが、今回のワーキンググループでの経験を通じて、一人一人が職員力を高めるとともに政策融合や開かれた市政、市民参加などの理念を念頭に明日からの仕事に活かしてほしい。
- 現在の庁舎で、今、携わっている仕事でベストを尽くし、限界に挑むことが大切であり、その延長線上に、新庁舎の実現があると思う。